



基本的に全ての陸生植物の表面はワックスの層（エピッククラワックス）によって覆われています。それらの化学的組成、物理的構造、量などにより、植物によって様々な表面構造が形作られていて、農作物の表面構造も作物の種類や品種によって様々です。これらの構造は、人間にとっては微小と感じられるものであっても、植物やそこに生息する昆虫たちにとっては死活問題となることもあります。本講演では、農作物の表面構造が害虫やその天敵昆虫の活動に及ぼす影響、また、それらを利用した害虫管理の可能性について紹介いたします。

2017年8月5日 (土)

農作物の表面構造で害虫の被害が変わる？

農業・食品産業技術総合研究機構

高篠 賢二

BIO MIMETICS

バイオミメティクス・市民セミナー

会場：北海道大学総合博物館/1階 「知の交流」
札幌市北区北10条西8丁目

時間：午後1時30分から午後3時30分

主催：北海道大学総合博物館
共催：科学研究費 新学術領域「生物規範工学」
高分子学会北海道支部
協賛：千歳科学技術大学バイオミメティクス研究センター

北海道大学総合博物館

060-0810 札幌市北区北10条西8丁目

問合せ先：TEL.011-706-2658 FAX. 011-706-4029

E-mail: museum-jimu@museum.hokudai.ac.jp

